

KAS

Cotton Up

こっとな あっぷ

Vol. 106

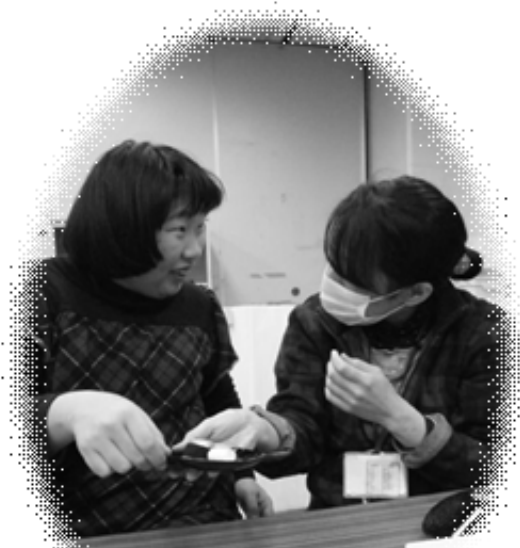
大好きなお寿司がゲームになりました！！
へイ、いらっしゃ〜い



注文する人、握る職人！
さあ、注文通りに握れるかな？



お客さん、お待ち！
穴子、鰯、いくら。。。出来上がり。



目次

- ・「4月になって」 理事長 佐藤哲也 《2ページ》
- ・「W・D・S・N 29 (Watage Daily Support News)
〜ご家族を亡くした時の生活を支える〜」 《3〜5ページ》
- ・ものもらくまるちとらく 《5ページ》
- ・後援会のご案内・2013年度 決算報告 《6ページ》
- ・編集後記 (編集部) 《6ページ》

発行人 神奈川県自閉症児・者親の会連合会
代表者 内田照雄 〒243-0035 厚木市愛甲2-11-6-109
(毎月1回15日発行) 購読料1部 15円

4 月になって

理事長 佐藤哲也

毎年、年度初めのご挨拶は少しでも明るい、希望に満ちた話題をと思うのですがままなりません。

4 月 1 日から消費税率が 5 % から 8 % へ引き上げられました。増税は 17 年ぶりとのことです。今回の増税は、前回に比べて国民の反応が少し鈍かったように感じていましたが、それでも 3 月末には増税前にまとめ買いをしようとする人達でスーパーなどはたいへんな混みようでした。3 % の増税と言われてもピンとこないところがありますが、夫婦と子ども 2 人の標準的な 4 人家族の場合、増税により平均で年間に 9 万円も負担が増えるという試算を目にしますと、やはり私達は大きな負担を強いられるということを実感せずにはられません。早速、家計簿を見直して、無駄な出費を抑えようと検討されている方もいらっしゃるかもしれません。

さて、私達の最大の関心事は、消費税率を 3 % 引き上げて得られる増収分が何に使われるのかではないでしょうか。政府は全額を社会保障の給付に充てると発表していますが、実際に「社会保障の充実」に回るのは、増収分約 5 兆円のうち、5000 億円程度だとのことです。果たして障害福祉の現場にはどのように影響するのか注視していかなければなりません。

一方、昨年 4 月に施行されました障害者総合支援法は、2014 年 4 月改正として、ケアホームのグループホームへの一元化及び重度訪問介護の対象者の拡大などが施行されました。今までは障害者の要求とかけ離れた法改正が繰り返され、その度に当事者たちは混乱させられてきましたが、今度の改正で少しは距離が縮まったのでしょうか。国は、障害者施策を段階的に講じていくため、法の施行後 3 年を目安として、障害者、家族及びその他の関係者の意見を反映させて見直すと言っています。ここがひとつの正念場になるのでしょうか。今回、一元化する背景には、障害者の高齢化・重度化に対応して、介護が必要になっても、本人の希望によりグループホームを利用し続けることができるようにとの狙いがあるとのことです。

当法人でも年々、利用者家族の高齢化が進むのに伴い、グループホームへのニーズが高まってきています。親亡き後の利用者に配慮していかなければならないのは当然のこととして、その後の利用者的高齢化に伴う種々の問題をも視野に入れた事業を展開していかなければなりません。

今回の法の施行で障害者に対する住まいの場の方向性が示されたことを受け、永住型グループホーム開設事業の推進に注力して行かなければと決意を新たにしているところです。新法の枠組みの中で何ができるのか、利用者ニーズの実態はどうか、立地と規模をどうするか、その他いろいろな課題を検討し、クリアしてできるだけ早い時期に実現しなければならないと思っています。そして、利用者が地域で安心して暮らせるハードとソフトを整え、次の世代を担う人たちへ、スムーズにバトンタッチができるようにすることも、私達の使命であると思っています。皆様の更なるご指導、ご鞭撻を賜りながらがんばって参ります。何卒よろしくお願い申し上げます。

WDSN (Watage Daily Support News) 29 ～ご家族を亡くした時の生活を支える～

昨年、ある利用者のご家族がお亡くなりになりました。急なことで職員も大変動揺しましたが、ご本人やご家族にお父様との別れを心おきなくしていただき、これからも落ち着いて生活していけるよう支援をさせていただくことになりました。

ご家族から悲しい連絡をいただいた後にご本人と初めて会った時、「お父さん入院」と何度か口にされました。このような状況でご本人を支えると言って支援者が出来ることは何でしょうか。ご本人がお父様を亡くしたという状況を正確に把握できなかったとしても、悲しみや驚きを、何かいつもと違うご家族の様子から感じているのだと思います。これらの気持ちを分かち合うことは、ご家族以外には出来ませんし、時間のかかることだと思います。私たちは気持ちに寄り添うことしかできません。私たちに出来ることは、ご本人に対して、この状況を分かりやすくお伝えし、これからの生活も安心して過ごせるように支えることだと考えました。

【お父様が亡くなったことを伝える】

ご本人に向けて、お父様が亡くなったことをどのように、どのタイミングで伝えるのかを、複数の職員で検討を重ね、ご家族と相談しながら決めていきました。

ご本人に伝えるのは、お葬式の当日ということにしました。普段、新しい予定をお伝えするのは2、3日前です。しかし今回は、お父様のことや先々の予定の確認を多く繰り返している状態であり、今までまったく経験したことのない内容であることから、お伝えした後すぐに実際にお葬式に参列し、お父様と対面されることが、時間を置くより良いのではないかと判断しました。お葬式には、ご家族からの依頼もあり職員が付き添うことにしました。

本人に伝達する方法は書面で、お父様が亡くなられたことを伝えるもの（右上）と、お葬式の予定表（左）を用意しました。初めに書面を作成した私は、「（お父様）なくなりました」という言葉を使いました。けれど、複数の職員で検討した際、「しにました」の方がご本人には分かりやすいという意見があり、検討の結果、この表現を使用することになりました。以前飼っていた犬について「死んじゃった」と口にすることがあり、「死ぬ」という言葉の方が分かりやすいのではないかと考えたのです。「亡くなる」に比べ「死ぬ」という言葉は何かきつい印象があり、私は躊躇しました。しかしご本人が理解し納得することが大前提であると考え、写真のような書面を用意しました。

お葬式の当日、上記の2つの書面をお見せしました。職員が指差しながら読むのをじっと見て、時折「お父さん死にました」「さよなら」という言葉がありました。言いづらくはありましたが、大切なのは、ご本人が理解し納得することです。私も同じ言葉を使い、ご本人の確認の言葉にお答えしました。お伝えするまでは、「お父さん」「お父さん入院」とまわりに尋ねることが度々あり、落ち着かない様子の時もありました。お伝えしてからは、そのように尋ねることがなくなり落ち着いて行動するようになりました。

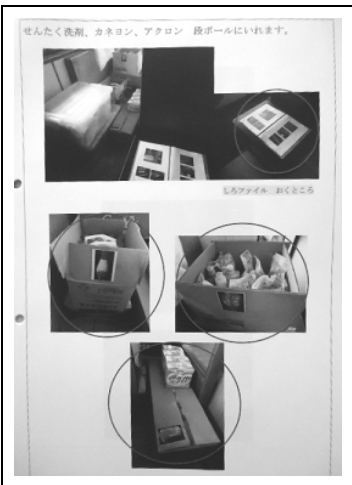
お葬式では、式を待つ間はご家族とともにいました。読経の時は、タイマーをセットして表示画面をお見せし、どの位で終わるのかをお伝えしました。タイマーの表示を時折見ながら、家族と並んで椅子に座っていました。お骨上げも、職員が付き添い落ち着いて参列していました。お父様とのお別れに最後まで参列することが、お父様が今日から居なくなるということを理解する大切な時間であると私たちは考えていました。お葬式を終えたその夜、前日までに比べ静かに過ごし、時折「お父さん死にました」「さよなら」「お葬式」と口にされていました。



【居間の変化を伝える】

お葬式を終え、お父様のお仏壇が居間に置かれることになり、ご家族から相談を受けました。お仏壇という新しいものを受け入れることが出来るか心配であること、お仏壇を置くためには部屋の整理が必要であり、これを機に居間のガラステーブルを撤去できないかということでした。ガラステーブルには、ご本人がこれまで買いためた洗剤類を並べていました。並べた洗剤類の重みでテーブルがたわんでしまい、家族が減らそうと思っても、洗剤類の並べ方、向き、本数なども把握しており動かせない状況であることは以前から伺っていました。

ご本人は、変わった状態の実物を急に見せられると、拒否や元に戻す行動があります。反対に、こう変わりますと事前にお伝えしたことは受け入れてくれることが、今までのご様子で分かっていました。そこで、出来るだけ忠実に、どのように居間が変わるのかを事前にお知らせするため、お仏壇のお写真を撮らせてほしいとお願いしました。このようなお願いに対し、「本人がその方が納得出来るのなら構いません」と了承して下さいったお母様には、本当に頭の下がる想いでした。



撮らせていただいた、居間の右側にお仏壇が置かれた写真に、お布団を敷いた写真をパソコンで合成して貼り付けた書面を作成しました。お布団は実際よりやや大き目に貼り付け、居間には、お仏壇とお布団以外に空いたスペースがないことが一目で分かるようにしました。同時に、今までテーブルに並べていた洗剤類は、納戸に段ボールに詰めて置いてあることを伝える書面も作成しました(左)。書面に使用した写真は、ご本人が法人の施設で作業されている日中に、職員が家庭に伺い、ご家族と職員で洗剤類を納戸の段ボールに移し、詰め終わった状態を撮影して用意しました。

これらの書面を使って、帰宅前に職員からお伝えしました。書面を見た直後、その書面を伏せ、「やらない、いらない」を伝える時に発する言葉がありました。洗剤類は段ボールにあるので安心なことを、書面の写真に赤丸をつける等しながら繰り返しお伝えしました。5 分ほどで書面をじっくりと見るようになり、「段ボールしまいます」

(段ボールに洗剤をしまうという意味)等、肯定的な言葉に変わっていききました。

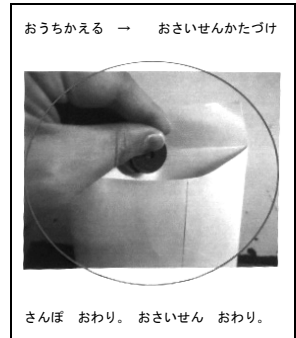
帰宅時には、ゆっくりと居間に足を踏み入れた後、洗剤類を見て、部屋全体を見て、自分が座る場所を決めた後は、落ち着いて過ごされていました。後の洗剤類の買い物後は、自ら段ボールにしまうことができたというお話もご家族から伺いました。

【これからの生活を伝える】

お父様とは、休日に近所の神社まで歩き、お参りをするのが日課となっていました。また休日や祝日には、ご両親との買い物やドライブの予定も決まっていました。これから先も、ご家族との楽しみとしてお母様と安心して続けていける予定を相談し、神社へのお参りと祝日のドライブを中止して、休日の買い物は継続することにしました。

以前から、職員が本人向けに作成しているカレンダーがあり、そこに「お散歩(お参りのこと) いきません、おうちでのんびり」等、新しい予定を記入しました。また、お参りの際に投げるお賽銭を本人が貯めているとの事で、それを入れる封筒を持ち帰り(右上)、自分ですべて封筒に入れて封をし、お参りは終わりという意識を持ってもらうことにしました。職員も家庭に同行させていただき、帰宅してお賽銭を封筒にしまうことはスムーズに行いました。カレンダーで月間予定を再確認した後、職員は帰りました。

しばらくしてご家族から連絡があり、自宅用カレンダーには今まで通りの予定を書きたがっているとの事でした。自宅用カレンダーに記入したことは必ず実行するとご本人が考えており、職員が作成したカレンダーに比べ、新しい予定を記入することに強い抵抗を感じたのだと思います。そこで再度お伺いし、自宅用カレンダーへの記入の場に職員も同席させてもらうことにしました。最初はまったく受け付けない様子でしたが、5 分、10 分と経つうちに徐々に様子の変化し、最後には新しい予定を自宅用カレンダーにも記入することが出来ました。



この時、ご本人が言ったことをお母様が自宅用カレンダーに記入し、職員はご本人が確認を求めた時だけ新たな予定を繰り返し伝えました。私たちが出来ることは、あなたは受け入れることができます、受け入れるまで待っていますという気持ちで、相手を信じて待つしかありません（本当に不思議ですが、私がそのように本気で考えている時は受け入れてくれますし、少しでも、どうかな、今日は難しいかなと考えてしまうと、受け入れるのに時間がかかってしまったりします）。そして何より、この時のお母様の気持ちが揺らいでいなかったことが、最終的にご本人が短い時間で落ち着いて受け入れられることに繋がったのだと思います。

この後も、病院への通院をお母様と2人で行くことができるよう、自家用車から電車での移動に変えたり、短期間に生活の変化がいろいろありましたが、事前に伝えることで受け入れて下さいました。

【おわりに】

先日お母様から、「お葬式に出ておいたことは本当に良かった。死んでいなくなったという理解はあるか分からないが、お葬式をしたからお父さんはいなくなったときちゃんと理解している様子。お葬式に出させていたでいてありがとうございました。」というお言葉を頂戴しました。

今回、ご家族のとてもプライベートな部分の支援をさせていただきました。それらを職員が見聞きさせていただくことを、本人のためになるならと、ご家族は惜しみない協力をしてくださいました。支援者は、ご本人はもちろんのこと、ご家族の協力なくしてはなかなか前へは進めません。また、ご家族の協力して下さるお気持ちが、取り組みを必ず成功させようという気持ちや、出来ることはもっとないかと職員が思う力になっていることは言うまでもありません。

冒頭でもお話しましたが、支援者が、利用者の方々に対してご家族以上の精神的な支えになることは難しいことだと思います。できることは、「ご家族が亡くなった」という事実を本人なりに理解できるように支援することだけかもしれません。しかしこの方は、それを理解できたからこそ、その後の生活の大きな変化を受け入れることができたのではないかと感じています。そして今、さらに新たな家庭での過ごし方を取り入れることにチャレンジをしています。楽しみな予定は取っておきながら、必要な時だけ買い物に行けるよう取り組みをすすめているところです。前述のとおり、大きな変化を乗り越えたこの方なら、きっと受け入れていってくれると信じています。

最後に、このように広報に掲載することを快諾してくださったご家族に感謝いたしますとともに、ご生前、大変お世話になりましたお父様の御冥福をお祈り申し上げます。

庄司恵美子

たんぽぽ・ヨコスカ ものどらっくまるちどらっく No.55

このコーナーでは毎月「横須賀たんぽぽの郷」最新ニュースをトピックスでお伝えして行きます。

健康管理講演会

3月7日の家族会にて、横須賀市保健所・健康づくり課の栄養士をお招きし、講演していただきました。利用者のみなさんが、自分らしく、生き活きと暮らしていくためには、心身が健康であることが欠かせません。昼食を提供する施設のみならず、多くの時間を過ごす家庭での食事も大切になります。ご家族にも、食生活について改めて考えていただく機会となりました。「生活習慣予防の食事」と題し、成人期が多い利用者の年齢に合わせ、一般的に食事で気を付けることや、「足りなかった栄養素は、次の食事で補う」「なるべく家族がそろって食事をする（他の家族が食事をするときに食べたくなることを防ぐ）」「美味しいものは、分け合う」など、具体的な実践法を紹介していただきました。全て実践しようとするのではなく、その中の1つでよいので、ご家庭で取り入れていくことが、利用者の健康に繋がっていくとのことでした。

たんぽぽの郷後援会のご案内

たんぽぽの郷後援会は、横須賀・三浦地区に在住の「自閉症」という障害を伴った人たちが、ともに生きる仲間として、地域で生活していくために必要な援助に取り組んでいる【社会福祉法人横須賀たんぽぽの郷】の活動を支援する事を目的に組織されました。

▼ 年会費	個人会員 1口	3,000円
	団体会員 1口	10,000円

たんぽぽの郷後援会にご理解、ご協力くださる方は、下記の郵便為替口座をご利用ください。

郵便為替口座番号 00240-9-17474

郵便為替口座加入者名 たんぽぽの郷後援会



《2013 年度 決算報告》

たんぽぽの郷 後援会

昨年度、皆様からいただきました会費については、下記のと通りの収支でしたので、ご報告申し上げます。

(自 2013 年 4 月 1 日 ～ 至 2014 年 3 月 31 日)

〈収入の部〉

〈支出の部〉

項目	決算額	項目	決算額
前期繰越金	13,208	寄付金(わたげへ)	595,000
会費	582,000	次期繰り越し金	208
合計	595,208	合計	595,208

以上

会計 常田 ちよ子

2013 年度収支決算書及び関係帳簿・領収書を監査したところ、報告に相違ないことを証します。

会計監査 對比地 祐子

高橋 正子

皆様より会費等の決算につきましては上記の如くご報告申し上げます。



編集後記

この冬は、横須賀でも大雪に見舞われ、どの地域でも雪かきに追われたのではないのでしょうか。我が施設も職員が一丸となって雪かきをしている中、気が付くと「よっこいしょ」と声を出している自分のことを、身体のみならず、気持ちも老齢化したと感じていました。さて、皆さんは「よっこいしょ」の語源をご存じですか？この言葉の語源は「六根清浄」という節があります。六根は眼・鼻・耳・身・舌・意(心)の働きのことを指し、不浄を見ない・嗅がない・聞かない・触れない・味あわない・思わないという身も心も無垢清浄になろうという祈りの言葉だそうです。そして、「六根清浄」が「どっこいしょ」「よっこいしょ」と変化したのだとか。日常で力を入れる時に何気に出る言葉が、そんな深い意味が込められていたなんて。明日から他の目を気にせずに「よっこいしょ」と言い仕事をしていきます。皆さん、新年度の始まりです。頑張ってください。

編集部

編集 社会福祉法人 横須賀たんぽぽの郷 〒239-0824 横須賀市西浦賀3-13-21
TEL:046-844-0038 / FAX:046-844-0036 E-mail: aag40690@hkg.odn.ne.jp